

科目名	基礎看護方法 I (共通基本技術) Fundamental Nursing I		担当教員 (研究室番号)	鈴木 聡美 (103) 灘波 浩子 (204) 川島 珠実 (202) 菅原 啓太 (208) 岡根 利津 (208)	教員への連絡方法 (メールアドレス)	鈴木 : satomi.suzuki@mcn.ac.jp 灘波 : hiroko.namba@mcn.ac.jp 川島 : tamami.kawashima@mcn.ac.jp 菅原 : keita.sugawara@mcn.ac.jp 岡根 : ritsu.okane@mcn.ac.jp					
履修年次	1年次前期	科目区分	専門科目・実践基礎看護学	選択区分	必修	単位数(時間)	1(30)	授業形態	演習	科目等履修生	否
										オプンクラス	否
科目目的	看護実践の基本となる看護援助について、安全・安楽に実施する技術を、主体的な学習により修得する。										
ディプロマ・ポリシー(DP)	主要なDP	H 人々の健康に関する課題の解決に向けて、安心・安全・安楽・自立を基本とした看護を実践する技能を身につけている。(技能・表現)									
	関連するDP	E (理解)	看護専門職者としての役割を認識し、看護の実践に活用するための専門的知識を身につけている。(知識・理解)								
		I (姿勢・態度)	自己の課題に対して研鑽する態度を身につけている。(姿勢・態度)								
到達目標	1. 看護技術の特徴について、自分の言葉で説明できる。 2. 対象者と看護者にとって、看護援助が、安全・安楽、効率的であるために基本的な知識および技術を習得できる。 3. 根拠に基づいて看護を実践することの必要性を説明できる。 4. 自らの学習課題に対して着実に演習や自己練習に取り組むことができる。										
成績評価方法(基準)	筆記試験(60点)、課題レポート(35点)、技術確認(5点)による総合評価を行う。なお、筆記試験・課題レポートはそれぞれ60%以上の評価であることを単位認定の条件とする。 重要：筆記試験は、技術確認に合格した者のみ受験することができる。										
再試験の有無と基準等	筆記試験で不合格となった場合、本人からの申請により、再試験を受けることができる。 課題レポートで不合格となった場合、本人からの申請により、再度レポート提出することができる。										
教科書	系統別看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[2]基礎看護技術 I, 第17版, 医学書院 系統別看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[3]基礎看護技術 II, 第17版, 医学書院										
参考書等	ヴァージニア・ハント著, 湯植ますほか訳: 看護の基本となるもの(再新装版), 日本看護協会出版会 アリス・ナインゲル著, 小玉香津子・尾田葉子訳: 看護覚え書き 本当の看護とそうでない看護, 日本看護協会出版会 その他、授業の中で適宜紹介する。										
学生の主体性を伸ばすための教育方法と学生への期待	基礎看護方法では、看護技術の根拠を考えながら、対象者を尊重し、その人に合わせた方法で行うにはどうすればよいか、追求してもらいたいと考えています。そのため、事前学習が必須であり、講義・演習ではグループで検討することを重視します。また演習では、学生間で患者役・看護者役を交代しながら学習しますので、「あとは自己学習(練習)すれば技術習得できる」ことを目指し、自己練習のポイントをつかみましょう。 共通基本技術は、授業(講義・演習)を受けるだけでは習得することはできません。自分のスケジュールを調整して、予習・復習及び技術の自己練習を行い、自己の技術の完成度を高めるよう取り組んでください。										
備考	・授業の準備(事前課題や予習、自己練習等)は、自己責任において実施する。授業資料等は授業開始前に配布するほか、一週間前に「資料レポート管理システム」から各自でダウンロードするよう指示する場合があります。 ・演習前には、個人や演習グループで自分たちが演習で用いる物品を準備する。他に当番制で、演習準備と演習後片付けを課すため、自己の役割を理解して主体的に取り組む(詳細はオリエンテーションで示す)。										
回	学習項目			学習内容				主担当教員	授業方法		
1回	オリエンテーション			看護技術の考え方・学習の仕方・実習室の使い方を学ぶ。				鈴木、他	講義 演習		
2回	環境調整技術①			人間にとっての環境の意味、健康的な生活環境を整えるための知識と援助方法を学ぶ。				鈴木	講義		
3回	環境調整技術② (ベッドメイキング)			基本的なベッドメイキングの技術を学ぶ。				鈴木、他	演習		
4回	安全確保・感染防止の技術①			対象者と看護者の安全を守るために、感染防止・事故防止の観点から安全の意義、安全を脅かす要因および排除する方法を学ぶ。				川島	講義		
5回	安全確保・感染防止の技術② (スタンダードプリコーション)			スタンダードプリコーション(手指衛生、エプロン・マスク・手袋の着脱)の実際を学ぶ。				川島、他	演習		
6回	活動・休息援助技術① (活動の意義・ボディメカニクス)			活動の意義、活動に影響を与える要因・アセスメントの視点、およびボディメカニクスの基本原理を学ぶ。				岡根	講義		
7回	活動・休息援助技術② (安楽な体位・ボディメカニクス)			援助過程における効果的な身体の使い方(ボディメカニクスの活用)および臥床患者を安楽な体位にする技術を学ぶ。				岡根、他	演習		
8回	活動・休息援助技術③ (体位変換)			活動を支援する必要性、および臥床患者の体位変換(仰臥位→側臥位、ベッド上の水平移動)の技術を学ぶ。				岡根、他	演習		
9回	清潔・衣生活援助技術 I ①			清潔の意義および環境や衣服を整える意義と健康に影響を与える要因・アセスメントの視点、および整え方を学ぶ。				菅原	講義		
10回	清潔・衣生活援助技術 I ② (シーツ交換)			臥床患者の下シーツ交換の援助を学ぶ。				鈴木、他	演習		
11回	清潔・衣生活援助技術 I ③ (寝衣交換)			臥床患者の和式寝衣を交換する技術を学ぶ。				菅原、他	演習		

回	学習項目	学習内容	主担当 教員	授業 方法
12回	総合演習	これまでに学習したことを活用しながら、事例患者に対し安全・安楽をふまえた援助方法を個人・グループで検討する。	菅原、他	演習
13回	活動・休息援助技術④ (休息・リラクゼーション・睡眠)	生活における休息・リラクゼーション・睡眠の意義、休息・睡眠に影響を与える要因・アセスメントの視点、および援助方法を学ぶ。	灘波	講義
14回	活動・休息援助技術⑤ (移乗・移動)	車いす・ストレッチャーへの移乗および移送の技術を学ぶ。	岡根、他	演習
15回	技術確認	基礎看護方法 I で学習した技術における自己の課題に取り組んだ成果を、他者評価・自己評価によって明らかにする。	鈴木、他	演習

学 習 課 題

* レポート課題の提出や配点は、別途知らせる。

- 1回目課題（事前）：授業ガイダンスの資料を読み、学習方法・内容の概要を理解する。
実習室2・3使用の手引きを読み、不明点・疑問点を明確にする。
- 1回目課題（事後）：実習室2・3の物品配置を実際に確認し、物品の場所とルールを理解する。
- 2回目課題（事前）：教科書および資料を元に人間にとっての環境の意義を整理する。
2回目課題（事後）：「生活環境を整える意味」について、自己の考えをレポートにまとめ、提出する。
- 3回目課題（事前）：教科書および資料を元にベッドメイキングにおける技術の根拠・留意点を整理する。
3回目課題（事後）：ベッドメイキングのチェックリストを用いて、自己の技術を評価し提出する。
- 4・5回目課題（事前）：安全の意義について、教科書や資料を元に自己の考えを整理する。
4・5回目課題（事後）：手洗いおよびスタンダードプリコーションのチェックリストを用いて、自己の技術を評価し提出する。
- 6・7回目課題（事前）：教科書および資料を元に活動・運動の意義、ボディメカニクスの基本原理を整理する。
6・7回目課題（事後）：安楽な体位および、ボディメカニクスを活用した身体の使い方を復習する。
- 8回目課題（事前）：教科書および資料を元に体位変換における技術の根拠・留意点を整理する。
8回目課題（事後）：体位変換のチェックリストを用いて、自己の技術を評価し提出する。
- 9回目課題（事前）：教科書および資料を元に清潔の意義を整理する。
- 10回目課題（事前）：教科書および資料を元にシーツ交換における技術の根拠・留意点を整理する。
10回目課題（事後）：シーツ交換のチェックリストを用いて、自己の技術を評価し、技術の完成度を高めるための課題を見出す。
- 11回目課題（事前）：教科書および資料を元に寝衣交換の方法・留意点を整理する。
11回目課題（事後）：寝衣交換のチェックリストを用いて、自己の技術を評価し提出する。
- 12回目課題（事前）：事例に関する自己学習及びこれまでに学習した技術の復習を行う。
- 13回目課題（事前）：教科書および資料を元に睡眠と休息の意義を整理する。
（事後）：自己の睡眠状況を記録し、課題を見出す。
- 14回目課題（事前）：教科書および資料を元に車椅子・ストレッチャーによる移動・移乗の方法と留意点を整理する。
14回目課題（事後）：車椅子・ストレッチャーによる移乗・移送のチェックリストを用いて、自己の技術を評価し提出する。
- 15回目課題（事前）：基礎看護方法 I で学習した技術における自己の課題に取り組む。
15回目課題（事後）：他者評価を踏まえて、自己の技術を客観的に評価し、自己の課題を明確にする。

実務経験を活かした教育の取組

・担当教員全員は、看護職として実務経験がある。看護の実践及び教育・研究活動を行っており、その経験を活かして本授業の講義及び演習を行う。